おおた社会福祉士会会報

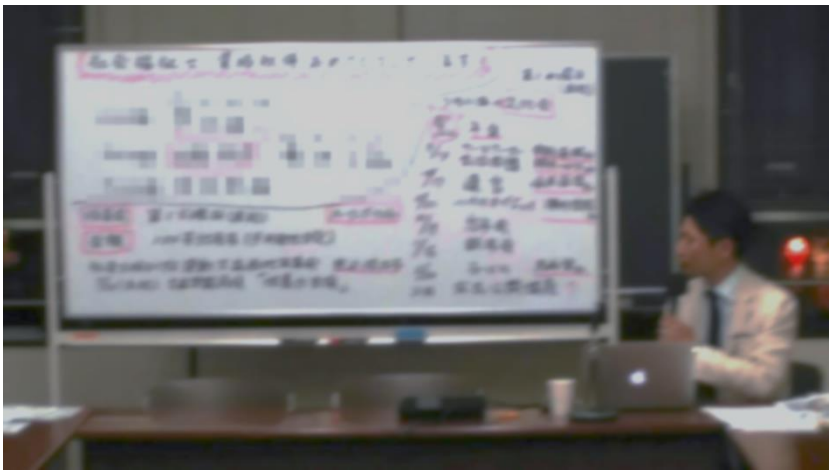
第99号
2018年（平成30年）7月3日発行

発　行：おおた社会福祉士会事務局
責任者：生駒　友一
連絡先：〒143-0021 東京都大田区北馬込２－２７－１１
電話・FAX　０３－３７７４－２９５５
E-MAIL：otachikukai@gmail.com

（11 月発行予定の 101 号からは郵送を取りやめ、メール配信・Web 版への切り替えを予定しています。）

５月定例会「社会福祉士全員集まれ～♪（茶話会）」報告

おおた社会福祉士会　会長　生駒　友一



５月１６日（水）、大田区消費者生活センター第６集会室で「社会福祉士全員集まれ～♪（茶話会）」を開催いたしました。５月の恒例イベントで、「資格取得おめでとうございます！」の気持ちをこめて、新入会員の歓迎会（直近３ヶ年）という趣旨で行っております。

今回は、今年２０１８年に社会福祉士資格を取得された方が１名、２０１７年２名、２０１６年１名の方にご参加いただきました。

また、この４月から大田区に異動された方など、初参加の方も数名いらっしゃいました。全体で２２名の方にご参加いただき、自己紹介や最近の取り組みなどをご披露いただきました。

その他、おおた社会福祉士会の主な事業の説明、今年度の計画などを共有しました。定例会内容の詳細など今後煮詰めていくものもあります。色々とご意見を出していただき、おおた社会福祉士会チーム全体で協力して運営できればと考えております。

運営面での反省点としては、下記のようなものがあったかと思います。

・各自が順番に自己紹介したので、マイク（有線）回しが大変だった。
・結果的に「なぜ社会福祉士になったのか（志したか）」という流れになり好評だったが、最初にこちらで

お題を準備しておいた方が話しやすいだろう。
・「自己紹介は『お名前」『所属』『近況報告』を１分間でお願いします。」など具体的に設定した方が良い。自己紹介だけで時間が取られてしまうともったいない。

今後の会運営、来年の同企画では反省点を踏まえて、より良い準備できるように改善していきます。

どうぞよろしくお願いします。

［５月定例会リアクションペーパーより］

初めての参加でしたが沢山のご経験がある社会福祉士の皆様と出会えてとても有意義でした。

これからも宜しくお願い致します。

社会福祉士の仕事の広さをあらためて感じました。

講師の話を聴くのも良いですが、会員相互の話もとても良かったです。

・様々な経歴の方々がここに集まっていることが社会福祉士という資格をよく表しているなぁと思いました。
・人のつながりを大切にする人達の集まりはとても心地よいです。
・自分の専門分野のことも発信していけたら良いなと思います。

様々な立場の方からのお話をお伺い出来、とても刺激になります。

久しぶりに参加しました。

今年度参加していければと思いました。

様々な職種の方がいることを知り心強く感じました。

資産管理など特に弱いので学んでいけたら。

年々、多分野でご活躍の方々の参加者が増えて来ていて、おおた社会福祉士会の活動が充実していると感じています。

定例会のスケジュールも楽しみです。

よろしくお願いします。

ほぼ自己紹介に終始する会でしたが、皆さん、それぞれの職種、職歴、また社会福祉士になられた動機について伺うことが出来、有意義であったと思います。

よろしくお願いします。

本日、社会福祉士として、多分野で活躍される方々とお会いでき通常の定例会ではない参加されているひとり一人の自己紹介がありました。皆さん分野は違っていても支援の必要性を考えて、社会福祉士を取得し、今後もより良い支援を目指しているという共通点に心地よく触れることができました。

ありがとうございました。

今回会員として初めて参加させていただきました。

今後は極力参加させていただいて、お話を聴いて勉強したいと思います。

（あまり還元できる話がないので恐縮ですが。）

社会福祉士になった動機や目的等、個人的な話しが聞けていつもと違った会で良かったです。

いろいろな方から社会福祉士をとった理由を聞けて新鮮な気持ちになった。

普段ご一緒の会員の皆様が「どうして社会福祉士になったのか」というエピソードが興味深かったです。

今日は参加者の皆さんの自己紹介を聞けて良かったです。

６月定例会「介護に直面する中でのワークライフバランス」報告

おおた社会福祉士会　会計　加藤　奈央

「介護に直面する中でのライフワークバランス～大田区内の中小法人における仕事と介護の両立に関するアンケート調査から見えてきたこと～」と題し、当会の元会長田端千英さん（一般社団法人大田区支援ネットワーク代表理事）にお話いただきました。

従業員の介護離職を避けるために大手企業では社内に介護相談の窓口を設けたり外部の介護事業者に業務委託し福利厚生として介護サービスを社員の家族向けに提供したりといった積極的な取り組みがなされるようになってきていますが、アンケートを通して中小企業ではまだまだ対応が難しいことが報告されました。

特に中小企業では、無記名のアンケートを行うにしても回答者が上司におおよそ特定できてしまうことがあり、介護に不安を感じていても率直な声をあげにくいこと、介護休暇の制度があっても業務を遂行するだけの余剰人員がないため実質的に制度を活用できない状態にあること、など一朝一夕には解決ができない問題がありました。

職員が介護や育児で休暇を取得する場合、その穴埋めをするのは直接介護や育児に携わらない人たちです。そのような直接は関わらない方々に対して、いかに社会全体の問題として支え合っていけるよう興味関心を啓発するのか、社会福祉士に期待される役割だと感じました。

［６月定例会リアクションペーパーより］

とても勉強になりました。詳細なデータに基づく仕事と介護の両立に何が必要なのかを知る機会となり、考えさせられました。従業員を守るしくみと企業を守るしくみが同時に必要なので制度改革が必要であると感じました。

・・

「仕事と介護の両立」

従業員のアンケートを取るのは、企業の理解も必要で、とても大変だったのではないでしょうか。お疲れさまです。ありがとうございました。

この結果を企業にフィードバックして、企業がこのテーマについて考え、実践的に何をしていくかなど追跡調査もしていただけると幸いです。

また、この結果を踏まえ、行政への報告のみならず、提言もしていただけると嬉しいです。たとえば、介護休職中の年金免除などの金銭的負担軽減など、また実際休業中、介護離職した方の実態調査も両立のための問題解決につながると思われるので、事例紹介でもいいので今後取りまとめていただけると嬉しいです。

・・・

介護事務に従事しており、ご家族と相談をさせて頂くと、仕事と介護の両立の不安を話される方が沢山いらっしゃいます。

アンケート調査や今日のお話をお伺いし、どういったことが不安に感じられていたのか等、とても参考になりました。

アンケート調査お疲れさまでした。ありがとうございました。

・・・

時間が足りず、もっといろいろ議論ができるといいと思いました。

今日のアンケートから課題を抽出し、私たち専門職がどんな関わりをもっていけるか、具体的に話し合える時間が持てたら実があると思いました。

お話を聞きっぱなしはもったいない◎

・・・

人によって、またライフステージによって、働きたいときに、稼ぎたいとき、休みを多くしたいときなど

あることを改めて認識しました。
でも企業側が就業時間や出勤日など柔軟には対応できるのか、まだまだこれからかなと思いました。
スーパーバイザーの設置は、良い考えだと思いました。でもやはり費用面など考えると厳しいかとも思いました。

ワークライフバランスにおける問題店がよくわかった。
企業向けに入っていくことが必要と感じた。
専門的な知識がある人がこの分野に入っていく必要があると感じた。
とてもいい話し合いができたと思う。

・アンケートから介護制度の認知度の低さに驚きました。
・またそのことが現場の専門職の疲弊につながっているというは、大きな課題であると感じました。

・介護現場ではない通常の民間企業に勤務している者として大変興味深いお話でした。
・私の務める会社でも、最近介護相談セミナーを開くなどの動きが出ています。
一方、それらに強い関心を示している人は、（私の周囲の人たちの中では）”50歳前後以降の独身男性”が多いと実感しています。（いよいよ必要性が出てきた人で家庭の対応力のない人。）
・また、介護と育児の違いは、育児は”保育者のお母さん本人がやらなければならない事”との意識がある一方、介護はその人の家族の状況など個人差が大きいことから、なかなかコンセンサスがとりにくいのではないか、と思いました。

介護する可能性　→　あります!
実家は500kmの彼方
昨秋、母が腰を痛め、「すわ、その時が！」と覚悟しました。
要介護認定も受けましたが、なんとか1人暮らしを続けています。
その時が来たらどうなるのか。
職場の介護制度をあらためて確認しないといけないです。

受けれない。　→　（正）　受けられない。
辞めれない。　→　（正）　辞められない。

ワークライフバランスの取り組み実態が理解できた。
介護離職防止は制度を作るだけでなく周知の仕方に工夫が必要かと。

・一般企業の介護に関する知識が、想像以上に低いのに驚きました。
・この企業に、介護福祉の理解を深めていただく事の啓蒙活動に期待しています。
・介護、育児があっても、普通に暮らせる社会になったら良いなと、しかし現実は厳しい事も分かりました。

介護離職等が課題になっている中で制度が全然理解されていないことが分かりました。

自分も親が高齢者になり、段々と現実になってきましたので、色々と知れて良かったです。

介護離職を防ぐための介護保険制度であったはずが、今も変わらず続いている現実と家族制度の変化による複雑化を考えさせられた。

介護や保育の仕事は中小企業も多く、働く人には自分の家族のために休みをとる環境が整えにくい。皮肉だなあとため息が出そう。直接、介護や保育に関わっていない市民にどこまで関心を持ってもらえるようにできるか。

社会福祉士の工夫のポイントだと理解した。

新役員紹介

今年度より役員として会運営にご協力いただけることになりました、お二人の新たなメンバーをご紹介します。

幹事　小澤（おざわ）　浩子（ひろこ）

私が福祉の仕事を選んだのは、４世代同居の家で育ち、常に家族介護、老いを見ながら育った中で、とても厳格だった祖母の終末期が、彼女の納得できるもの、彼女らしいものであったとは言えない状態を目の当たりにしたことがきっかけです。「自分もあす障がい者になるかもしれないし、いずれは高齢者になる。その時、たとえ介護されるようになっても、可能な限り自分の事は自分で決めたい。それができないなんて怖い。」と思った事を覚えています。当時 20 代だった私は、「自分の選択権は自分で握っていたい。それが可能な世の中であってほしい。」と強く思いました。それが私の福祉の原点です。

施設職員や在宅介護のヘルパーとして働き、介護保険施行時に社会福祉協議会に入りました。専門職として、介護保険サービス、障害福祉サービスを担当し、ひとつひとつ資格取得を進めてきました。現在は、介護認定調査業務と地域担当制の地区担当を兼務しています。

３年前に職場以外での学びやつながりを得られたらと おおた社会福祉士会に入会し、多様な場で福祉に取り組む先輩方と一緒に、様々なテーマの勉強会で学んでいるところです。

原点のごく個人的なシンプルな思いを大切に、少しでも福祉を実践する人になれるようにこれからも成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

幹事　水越（みずこし）　幸彦（ゆきひこ）

平成 30 年度の幹事に選出していただきました水越と申しますよろしくお願いいたします。

私は、社会福祉法人大田幸陽会で区の事業の大田区若草青年学級という 35 歳までの知的障害をお持ちの方の余暇支援という事業の運営委員をしています。事業として 50 年継続している事業です。

また、法人で大田区立の福祉事業を受託していますが、園祭には、区長、議長や議員の方も多くお見えになります。このような地区は 23 区を見渡してもないようです。

このように区のトップが福祉に大きくかかわっている地区の社会福祉士会で福祉を勉強できることは大変幸せだと感じています。

また、社会福祉士として共生社会のなかで利用者を中心に高齢、障害、児童、生活扶助等その方の困りごとを解決していく福祉をめざす時代に対応していかなければならないという時代になりました。

大田区の社会福祉士会として今大きく変わっている福祉とともに大田区の福祉を皆で一緒に学び有益な情報を発信していけるような会にしていきたいと思います。

志を大きく持って活動していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

７月～９月定例会、社明ミニ集会のお知らせ

７月　定例会　「Advocacy and Research Centre for Homelessness （ARCH）の活動報告～『東京ストリートカウント（市民参加型・夜間路上ホームレス人口調査）』を通じて広めたいポジティブなレガシー～」

ARCH(アーチ)は研究・アドボカシー・キャンペーン活動を通して、ホームレス状態の解決に取り組み続ける優しい社会、優しい都市の実現を目指します。

路上で寝ている人がいても、皆が見て見ぬフリをして素通りしていく社会ではなく、皆がその人のことを気にかけ、支え合おうとする。

そういう社会は、そこに暮らす色々な人びと–家族で住んでいる人、独り暮らしの人、お年寄り、働き盛りの人、若者、子ども、障害を持っている人、お金持ちの人、生活に困っている人、友達の家やネットカフェを転々としている人、何年も野宿している人、…–皆にとって優しく、多様性があり、また柔軟な強さを備えた社会なのではないか。こうした理念のもと、私たちは活動しています。（ARCH ホームページ「Our Vision」より引用）

とき　７月１８日（水）午後７時 ～８時３０分　　ところ　大田区消費者生活センター２階 第６集会室

講師　北畠 拓也 氏（ARCH 共同代表）　　参加費　５００円

※定例会の後、有志により懇親会を開催します。

緊急開催決定！　“社会を明るくする運動”ミニ集会　ＤＶＤ上映会

『明日へのまなざし～保護司の活動とその喜び～』（40分）　　協力：大田区保護司会

２０１７年より、おおた社会福祉士会は“社会を明るくする運動”大田区推進委員会の加盟団体となりました。７月は“社会を明るくする運動”の強調月間ですので、７月定例会の開催前にミニ集会を開催することにいたしました。ＤＶＤ作品『明日へのまなざし～保護司の活動とその喜び～』（法務省保護局　企画・制作　２００６年）の上映会です。どなたでも無料でご参加いただけますので、皆さまお誘い合わせの上ご参加ください。

とき　７月１８日（水）午後６時 ～６時４０分　　ところ　大田区消費者生活センター２階 第６集会室

参加費　無料

８月　定例会　「特定社会保険労務士が、『10年年金』『被用者年金一元化』『障害年金の受給』『二十歳前傷病の障害年金』についてわかりやすくお話します。」

特定社会保険労務士で社会福祉士の水越と申します。社会保険庁から日本年金機構に変わった 2010 年 1 月から 5 年 3 ヶ月在任しました。その後、福祉の専門学校に行き現在は社会福祉法人に勤務しています。

現在、公的年金がもらえるには、受給資格期間が 10 年以上あれば良いことになりました。また、公務員も厚生年金になったりしています。また、障害年金については身体、知的、精神障害について年金の受給に関

して異なるところがたくさんあります。そして、福祉に関与している方からは20歳前障害の国民年金について関心をお持ちだと思います。

これらのことをお話させていただき、福祉の業務に関与されていて、どのような場合に年金の相談をしたらいいかお話いたします。

とき　８月２２日（水）午後７時 ～８時３０分　　ところ　大田区消費者生活センター１階 mics おおた教室
講師　水越 幸彦 氏（特定社会保険労務士・元年金事務所職員・本会会員）　参加費　５００円

９月　拡大定例会　「『健康で文化的な最低限度の生活』を支える生活保護ケースワーカーの仕事」（仮）　　後援：大田区　大田区社会福祉協議会

とき　９月１９日（水）午後７時 ～９時　　ところ　大田区消費者生活センター２階 大集会室
講師　常数 英昭 氏（上智社会福祉専門学校等 非常勤講師）／柏木 ハルコ 氏（漫画家）
参加費　５００円　　定員　１００名（申込先着順）
申込方法　下記リンク先（QR コード利用可）にてお申し込みください。
または、参加者全員のお名前をご記入いただき事務局宛にメール・FAX でお申し込みください。 https://goo.gl/forms/wCxeg052spYYNfFc2

参加申込
QR コード

会報１００号記念号、１０１号からメール・Web版への移行について

次号９月発行予定の会報は、２００１年１２月６日の第１号発行から数えてちょうど１００号の節目を迎えます。足掛け１８年、隔月で発行してまいりました。この間、多くの会員、外部の有識者の方にご寄稿いただきました。記録することの重要さを、社会福祉士に向けて改めて強調する必要もないでしょう。会報は、おおた社会福祉士会の歴史であり、私たち社会福祉士、そしてこれから活躍する未来のソーシャルワーカーたちの大いなる財産となるものです。今後も会報の発行は継続していきます。

ただし、１０１号からは郵送方式を卒業（廃止）し、メール・Web 版への移行を進めてまいります。パソコンやスマートフォンなど IT 環境が整備されてきたこと、郵送に必要な切手や封筒代などの通信費を節約できること、事務作業の負担が軽減できることが理由です。定期総会のご案内は、従来通り郵送にてお知らせいたします。どうぞご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

参加申込
QR コード

メーリングリスト参加方法

下記リンク先（QRコード利用可）にてお申し込みください。またはお名前・メールアドレス・会員種別（正会員・ネットワーク会員）をご記入いただき事務局宛にメール・FAXでお申し込みください。 https://goo.gl/forms/NUOy34mCXqIuRb372

おおた社会福祉士会ホームページ

最新号および過去の会報もご覧いただけます。→ → → → → →

※カラー写真を掲載した会報をおおた社会福祉士会のホームページで公開しています！ こちらもぜひご覧ください！
⇒ http://otachikukai.lovepop.jp/index.html

ネットワーク会員制度に関する重要なお知らせ

チーム制の休止など活動形態の変化などに伴い、ネットワーク会員制度のあり方を改めました。年会費を廃止し、入会金納付＋役員会での承認をもってネットワーク会員資格を与えるものとします。

メーリングリスト登録者には、正会員・ネットワーク会員を問わず定期的に参加の意思確認を行います。（会長　生駒 友一）